

平成23年度熊本県公立学校いじめアンケート結果の概要

義務教育課・高校教育課・特別支援教育課

1 調査の目的

各学校が、いじめの実態を確実に把握するとともに、迅速・適切な対応を行い、いじめの早期解消に取り組むための資料とする。

また、県教育委員会、市町村教育委員会及び各学校におけるいじめ根絶に向けた具体的な対応策を検討する資料とする。

2 集計結果

別紙参照

3 総合的な概要

- (1) 「今の学年になっていじめられたことがある」と回答した児童生徒は、アンケートに回答した児童生徒185,990人（全児童生徒数の99.1%）のうち17,917人で全体の9.6%にあたる。昨年度の調査結果に比べると、1,544人増加しており、依然として多くの児童生徒が「いじめられた」と感じている。また、小学校では2年生、中学校・高等学校では1年生が最も多く、「今の学年になっていじめられたことがある」と回答した児童生徒は、学年が上がるにつれて減少する傾向にある。
- (2) 「今の学年になっていじめられたことがある」と回答した児童生徒のうち、調査時に「今もいじめが続いている」と回答した児童生徒は4,723人（26.4%）であり、371人（4.7ポイント）減少した。
- (3) いじめを受けた相手としては、各学校種とも「同級生」（「クラスの人」を含む）が最も多く、次いで小学校、特別支援学校では「上級生」、中学校、高等学校では「部活動を一緒にしている人」となっている。
- (4) いじめの態様は、「冷やかす、からかい」「言いがかり、おどし」など言葉によるもの、「仲間はずれにする」「物をかくす・汚す」「殴る、蹴る」などが多い。また、「ネット掲示板に書き込む」については、小学校では、昨年度とほとんど変わらず、中学校では減少し、高等学校・特別支援学校では増加している。
- (5) 県の調査では、平成23年度中にいじめを受けた児童生徒の3月31日現在での解消率は、小中学校では99.2%（昨年度比0.1ポイント増加）、高等学校では96.4%（昨年度比1.0ポイント増加）、特別支援学校では100%（昨年度と同じ）である。

4 小中学校の調査結果の概要

- 「今の学年になっていじめられたことがある」と回答した児童生徒は、アンケートに回答した児童生徒150,480人（小中学校全児童生徒の99.3%）のうち17,410人で、全体の11.6%にあたる。昨年度の結果と比べると1,665人（1.3ポイント）増加している。
- 「いじめられた」と回答した児童生徒の学年別の割合は、小学校では2年生、中学校では1年生が最も高い。その後は学年が上がるにしたがって低くなる。ただ、中学1年では、小学6年より割合が高くなっている。
- 「今もいじめが続いている」とした割合は、いじめられたとした児童のうち26%であり、小学生より中学生が割合は高い。ただ、前年度と比較すると小中学生ともに

5 ポイント余り減少している。

- いじめられた相手としては、小中学生ともに「同級生」が最も多く、小学生で75%、中学生では87%程度になる。次いで小学生が「上級生」、中学生が「部活動と一緒にしている人」となっている。傾向としては、昨年度と同様である。
- どんないじめを受けたかは、小中学生ともに「冷やかし、からかい」が最も多く、次いで「仲間はずれにする」、「いいがかり、おどし」の順であり、昨年度と同様である。「お金や物をとる」「笑われることをさせる」などの悪質なものも昨年度とほぼ同じような割合である。
- 「いじめを受けたときに誰かに相談したか」については、「相談していない」とした児童生徒が5,585人（いじめられた回答した児童生徒の32.1%）いる。昨年度との比較では、中学生では昨年度より「相談した」割合が高くなっているのに、小学生で3ポイントほど減少したため、全体としては昨年度より低くなった。
- いじめを受けたときに相談した相手は、小学生で「家族」「担任」「友達・先輩」、中学生が「担任」「家族」「友達・先輩」の順である。
- 相談しない理由としては、小中学生ともに「先生に相談すると余計ひどくなる」「自分の力で解決することができる」が、「相談しない」と回答した児童生徒のそれぞれ3割程度となっている。
- 「いじめを見たときどうしたか」については、小学生では、「注意してやめさせた」「いじめられている人の話を聞いた」などが多い、中学生では、「注意してやめさせた」「先生に相談した」の割合は低くなり、「黙ってみていた」「いじめられている人の話を聞いた」が高くなる傾向がある。
- 携帯電話やパソコンの所持については、昨年度とほぼ同じような所持の割合であった。ただ、携帯電話を持っている小学生の割合が微増している状況である。
- 学校非公式サイトについては、「見たことがある」とした小学生が2.0%、中学生が4.3%であり、「書き込みをしたことがある」については、0.4%である。
- メールやインターネット掲示板によるいじめを経験をした児童生徒の割合はかなり低い。ただ、メール等によるいじめは、学校ではつかみにくい状況も考えられるので、家庭との連携を図りながら実態を的確に把握して指導を行う必要がある。

5 高等学校（市立高校を含む）の調査結果の概要

- 「今の学年になっていじめられたことがある」と答えた生徒は456人（1.3%）で、昨年度より132人（0.4ポイント）減少した。学年別では1年生が217人と最も多く、早い段階での人間関係づくりや指導が必要である。
- いじめを受けた時の相手については、平成23年度から、選択肢に「クラスの人」を設け、「同級生」との差別化を図った。約7割（66.9%）が「クラスの人」からいじめられたと感じている。また、いじめの態様については、「冷やかし、からかい」と答えた生徒が4割強（45.6%）であった。
- いじめが「今も続いている」と回答した生徒は171人（37.5%）であった。
- いじめが続いていると回答した生徒のうち、誰に相談したかについては、約7割（71.9%）が「友達や先輩」に相談し、次いで「担任の先生」（62.5%）「家族」（57.3%）であった。高等学校においては部活動や特別活動、家庭訪問など、様々な場面で情報の共有を図り、相談体制を確立するなど早期対応・早期解決への適切な取組が必要である。
- 平成23年度から、「誰かがいじめられているのを見たり聞いたりしたことがあり

ますか」などの設問を新たに設けた。「見たり、聞いたりしたことがある」と回答した生徒は1749人(5.1%)であった。

- 誰から誰へのいじめを見たり聞いたりしたかについては、「クラスの人から」(61.3%)、「クラスの人への」(52.9%)が最も多く、いじめの内容については、「冷やかし、からかい」が4割強(45.7%)を占めた。
- いじめを見たり聞いたりした時期についても「つい最近」と回答した生徒が473人(27.0%)いた。
- 携帯電話の所持率は高等学校で約9割(89.5%)の生徒が自分専用の携帯電話を所持している。また、家庭でのルールについては、高等学校で約6割(63.5%)の生徒が「ない」と回答している。
- 携帯電話でよく使用する機能については高等学校で「メール」が約8割(83.2%)と多く、次いで「電話」(46.9%)、「インターネット全般」(43.8%)であった。
- 携帯電話の1日の使用時間については30～60分と回答した生徒が20.2%と最も多く、携帯電話を所有している生徒の約5人に1人の割合になる。
- インターネット上の掲示板への書き込みについては、1割強割(13.2%)の生徒が書き込みをしたことがあると回答し、平成22年度(19.7%)より減少したものの、依然情報モラルや人権問題への取組の徹底を図る必要がある。

6 特別支援学校の調査結果の概要

- 「今の学年になっていじめられたことがある」と答えた児童生徒が51人おり、「今も続いている」と回答した児童生徒は21人(41.2%)であった。
- いじめられた相手としては、「同級生」が最も多く、54.9%である。「他の学校の子ども」も1割強(11.8%)あり、昨年度の5.0%から2倍以上増えている。
- どんないじめを受けたかは、「冷やかし、からかい」が一番多く4割弱(39.2%)あった。
- いじめが続いていると回答した児童生徒のうち、誰に相談したかについては、約6割(63.2%)が「担任の先生」に相談し、次いで約2割(21.1%)が「担任以外の先生」「友達や先輩」に相談したと回答した。
- 「誰かがいじめられているのを見たり聞いたりしたことがある」と回答した児童生徒は61人(5.2%)であった。
- 携帯電話の所持率は小学部5年生以上を対象とした調査において、36.4%で、昨年度より7.4%増加していた。家庭でのルールについては、3割強(33.3%)の児童生徒が「ない」と回答している。
- 携帯電話でよく使用する機能については「メール」(66.7%)と「電話」(65.6%)とほぼ同じ比率である。
- 携帯電話の1日の使用時間については30分以下と回答した児童生徒が45.3%、30分～60分と回答した児童生徒が23.0%であった。
- インターネット上の掲示板への書き込みについては、6%の生徒が書き込みをしたことがあると回答しており、昨年度よりわずかに減少している。

7 今後の取組

(1) いじめの未然防止と早期発見・早期対応の学校体制づくりについて

- 学校で、「子どもの居場所づくり推進テーブル」に示された4つの視点(児童生徒同士の間関係づくり、児童生徒と教職員との信頼関係づくり、教職員の一致団

結及び家庭、地域・関係機関との連携を図る視点)を明確にした生徒指導体制や行事等の取組を見直す。

- 学校が、いじめアンケートの結果から、課題解決に向けた教職員の共通理解と共通実践に基づいて取り組み、その取組を評価・改善していくというPDCAサイクルを念頭に置いた取組を行う。
- 学校が独自の無記名のアンケート調査等を定期的実施し、いじめの実態把握に努める。そのために、小中学校では、各学校にアンケートの抜粋版を送付し、参考資料として活用し、実態把握に努める。
- 学校が、「いじめ対策検討委員会」等を定期的開催し、情報の共有化を図りながら、いじめの未然防止や早期発見・早期対応に努める。
- 「いじめ対応の手引き」等を活用し、教職員の認識を深め、いじめの未然防止や早期発見・早期対応のための共通実践に努める。
- 系統的で、継続性のある指導計画の下に、命を大切に作る心や自然に対する畏敬の念、自他を大切に作る心、感謝の心、郷土を愛する心などの豊かな心の醸成を図る。
- 担任による指導に加え、全教職員の協力の下で生徒指導にあたる体制を整え、学校内の規律の維持に努めるとともに、児童生徒の規範意識の醸成を図る。
- いじめ根絶に関するポスターや標語の作成に取り組み、その作品を校内掲示するなど、年間を通して、いじめを生まない、いじめを許さない環境づくりを進める。

(2) 発達段階、学校環境の変化を踏まえた対応について

- 幼・保等、小、中、県立学校間の定期的な連絡会、合同研修会、情報交換会等を実施して指導者の連携を図り、滑らかな移行ができるように工夫する。
- 幼・保等、小、中、県立学校間で日常的な子ども同士の交流活動、入学前の体験入学や説明会などを行うなど、校区内の幼・保等、小、中、県立学校間の連携を深めるとともに、特別な支援が必要な児童生徒においては、確実に支援の引き継ぎを行う。
- 入学当初の学校行事や学級活動等において、新しい仲間づくりができる教育活動の工夫を行う。

(3) どの子ども誰かに相談できる体制づくりについて

- 学級経営を点検・評価し、児童生徒と教職員との信頼関係をさらに高める。
- 相談室の整備や相談箱の設置、相談機関等の周知を積極的に行う。
- 担任、養護教諭、スクールカウンセラー等が相互に連携を図り、教育相談の場所や時間、実施方法などについて工夫改善し、どの子ども相談しやすい体制をつくる。
- 「熊本県子どもいじめ相談電話」等の相談機関について、児童生徒に周知を図る。
- 各教育事務所は、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー、いじめ・不登校アドバイザー等の活用について各学校に一層の周知を図る。

(4) 児童生徒の豊かな心や道徳的実践力、人間関係づくりの力を育てる取組について

- 道徳や特別活動等を通して「正義感」「思いやり」などの豊かな心をはぐくみ、「仲間づくり」など人間関係づくりの力を伸ばす。
- 社会奉仕体験や自然体験などの体験活動を通して児童生徒の自尊感情を高め、道徳的実践力を育成する。
- 学級活動や児童会、生徒会活動等の児童生徒によるいじめ根絶のための自主的活

動を促進する。

- 異学年交流や児童生徒相互の交流的な相談活動（ピアサポート）等に積極的に取り組み、いじめの未然防止に努める。
- すべての教育活動において、児童生徒の言語活動が適正に行われるようにするとともに、コミュニケーション能力の育成に努める。
- スポーツやレクリエーション、体験活動等を通して児童生徒が互いに認め合い、学び合い、助け合う学校、学級づくりを行う。

(5) 教職員と児童生徒の信頼関係の構築について

- 教職員が「いじめは人として絶対に許されない行為である」との強い認識をもち、アンケートに児童生徒が自らの思いを打ち明けることができるように日ごろから児童生徒との信頼関係を高める指導を進める。
- 教職員は、児童生徒に対して、一人一人がかけがえのない存在であることを日ごろから語り込み、「徹底して守り通す」という姿勢を示す。
- 教職員は、すべての教育活動において、共感的な児童生徒理解に努め、子どもの声に耳を傾け、訴えを丁寧に受け止めながら適切に対応する。
- 教職員が、子どもとのより強い信頼関係を築くために、指導方法を工夫し、分ける授業を実践するとともに、子どもとの遊びや触れ合いの時間を確保する。

(6) 教職員の人権感覚の向上について

- 教育委員会等が行う人権教育の研修を充実するとともに、いじめに関する参加体験型の研修等を実施することにより、教職員の人権感覚の向上を図る。
- 校区ごとの定期的な連絡会や相互の訪問交流により、教職員等の相互理解を深め、児童生徒の発達に応じた適切な対応について、学び合う機会を設ける。
- 教職員自身が率先して言語環境を整えていくという認識に立ち、各学校での校内研修等において、児童生徒一人一人への接し方などを振り返る研究等を実施する。
- 教職員が、常に「くまもとの教職員像」に基づいて自らの教育活動を振り返りながら、教育的愛情を持って指導に当たる。

(7) 家庭、地域・関係機関との連携による取組について

- いじめについて、「学校便り」や「学級便り」などの通信で取り上げたり、家庭訪問などをしたりすることにより、学校と家庭との緊密な連携を図る。
- 小中学校、公立高等学校及び県立特別支援学校では「子どものサイン発見チェックリスト（家庭用）」を配付し、家庭でのいじめに対する意識を高めるとともに、学校だけでは気づきにくいいじめの未然防止・早期発見を図る。
- 市町村教育委員会や各学校は、家庭において基本的な生活習慣や善悪の判断などの基本的なルールやマナーをはぐくむよう「くまもと家庭教育10か条」などを活用し、様々な機会をとらえて啓発を図る。
- スクールソーシャルワーカーの活用などを通して、学校、家庭、相談機関や関係機関等が情報の共有化を図り、相互に連携した取組を進める。
- 市町村教育委員会は、域内で「いじめ対策検討会議」を設置するなど、学校・家庭・地域社会が連携して地域ぐるみでいじめ根絶に取り組むための方策を検討する。
- 6月の「いじめ根絶月間」の取組として、学校・家庭・地域が連携して、いじめ根絶のために、講演会や体験活動などを行い、地域ぐるみでいじめ根絶に向けて取

り組む気運を高める。

(8) ネット掲示板や携帯電話等への対応について

- 学校非公式サイト調査等により、子どもたちの携帯電話の利用の実態を把握するとともに、平成22年3月31日付け「子どもの携帯電話の適正な取扱い等について」(通知)に基づき、市町村教育委員会等に、学校、家庭、地域、関係機関が協力して携帯電話の正しい利用や情報モラル等の指導を徹底するよう依頼する。また、モデル授業開発や教材作成等を通して、教職員の指導を支援する。
- 保護者に対して、フィルタリングソフトの有効性や学校と家庭が協力して取り組むことの必要性等について啓発を図り、児童生徒を取り巻く環境を適切に整えるよう努める。

平成23年度熊本県いじめアンケートの集計結果(集計表のみ)

- 1 実施期間 小中学校:平成23年11月1日(火)～平成23年11月30日(水)
県立学校:平成23年11月22日(火)～平成23年12月22日(木)
- 2 調査対象 県内公立小中高及び特別支援学校の児童生徒
- 3 実施状況

	小学校			中学校			高等学校		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
児童生徒数	51,172	48,543	99,715	26,839	24,965	51,804	18,113	16,722	34,835
実施者数	51,035	48,445	99,480	26,449	24,551	51,000	17,877	16,451	34,328
未実施者数	137	98	235	390	414	804	236	271	507
実施率	99.7%	99.8%	99.8%	98.5%	98.3%	98.4%	98.7%	98.4%	98.5%
	特別支援学校			合計					
	男子	女子	合計	男子	女子	合計			
児童生徒数	869	515	1,384	96,993	90,745	187,738			
実施者数	744	438	1,182	96,105	89,885	185,990			
未実施者数	125	77	202	888	860	1,748			
実施率	85.6%	85.0%	85.4%	99.1%	99.1%	99.1%			

※今年度の実施率は、全体で99.1%、未実施者は1,748人であった。

※未実施者は、病気による長期欠席や不登校等により家庭訪問や個別の面談等においても調査できなかった者。

4 主な調査結果

【小・中・県立学校共通の調査結果】

(1)今の学年になっていじめられたことがありますか。

校種		平成23年度			平成22年度		平成21年度	
		あると回答	割合	実施者数	あると回答	割合	あると回答	割合
小学校	男	8,165	16.0%	51,035	7,204	13.9%	7,387	14.0%
	女	6,613	13.7%	48,445	6,056	12.3%	5,992	12.0%
	計	14,778	14.9%	99,480	13,260	13.1%	13,379	13.1%
中学校	男	1,462	5.5%	26,449	1,311	4.9%	1,505	5.6%
	女	1,170	4.8%	24,551	1,174	4.7%	1,298	5.1%
	計	2,632	5.2%	51,000	2,485	4.8%	2,803	5.4%
高等学校	男	257	1.4%	17,877	327	1.8%	372	2.0%
	女	199	1.2%	16,451	261	1.5%	289	1.7%
	計	456	1.3%	34,328	588	1.7%	661	1.9%
特別支援学校	男	29	3.9%	744	29	4.1%	30	4.1%
	女	22	5.0%	438	11	2.6%	12	2.9%
	計	51	4.3%	1,182	40	3.6%	42	3.7%
合計	男	9,913	10.3%	96,105	8,871	9.1%	9,294	9.4%
	女	8,004	8.9%	89,885	7,502	8.2%	7,591	8.2%
	計	17,917	9.6%	185,990	16,373	8.7%	16,885	8.8%

※学年別集計(いじめを受けた児童生徒数)

学年	小学校		中学校		高等学校		学部	特別支援学校	
	回答者数	割合	回答者数	割合	回答者数	割合		回答者数	割合
1年	2,793	17.5%	1,404	8.4%	217	1.9%	小学部	5	1.9%
2年	3,285	20.4%	756	4.5%	144	1.2%	中学部	11	4.5%
3年	3,077	18.7%	472	2.7%	95	0.8%	高等部	35	5.2%
4年	2,537	15.2%							
5年	1,898	11.0%							
6年	1,188	7.0%							

(2)いじめは今も続いていますか。(調査時点)

状況	校種	平成23年度		平成22年度		平成21年度	
		児童生徒数	割合	児童生徒数	割合	児童生徒数	割合
続いている	小学校	3,677	24.9%	3,936	29.7%	4,081	30.5%
	中学校	854	32.4%	926	37.3%	905	32.3%
	高等学校	171	37.5%	213	36.2%	251	38.0%
	特別支援	21	41.2%	19	47.5%	15	35.7%
	合計	4,723	26.4%	5,094	31.1%	5,252	31.1%
続いていない	小学校	11,101	75.1%	9,324	70.3%	9,298	69.5%
	中学校	1,778	67.6%	1,559	62.7%	1,898	67.7%
	高等学校	285	62.5%	375	63.8%	410	62.0%
	特別支援	25	49.0%	21	52.5%	27	64.3%
	合計	13,189	73.6%	11,279	68.9%	11,633	68.9%

(3)だれからいじめられましたか。(いじめを受けた時の相手:複数回答)

割合(%)

	平成23年度				平成22年度			
	小学校	中学校	高等学校	特別支援	小学校	中学校	高等学校	特別支援
クラスの人			66.9%					
同級生	75.7%	87.2%	22.8%	54.9%	76.6%	88.7%	81.8%	62.5%
上級生	24.5%	9.1%	8.8%	15.7%	25.7%	10.2%	8.0%	25.0%
部活動を一緒にしている人	8.9%	14.4%	10.7%	7.8%	9.6%	15.6%	11.9%	5.0%
先生	0.4%	0.8%	7.0%	2.0%	0.4%	1.6%	6.8%	5.0%
地域の青年	3.6%	0.2%	1.3%	2.0%	3.6%	1.0%	1.2%	0.0%
他の学校の子ども	5.7%	1.7%	2.9%	11.8%	5.9%	1.6%	2.2%	5.0%
その他の人	3.6%	1.6%	4.2%	11.8%	3.9%	2.1%	3.6%	15.0%

※高等学校の「クラスの人」は、平成23年度から選択肢として追加。

(4)どんないじめを受けましたか。(いじめの態様:複数回答)

	平成23年度				平成22年度			
	小学校	中学校	高等学校	特別支援	小学校	中学校	高等学校	特別支援
いいがかり、おどし	27.5%	19.9%	25.4%	17.6%	28.7%	18.3%	28.6%	22.5%
冷やし、からかい	33.6%	52.0%	45.6%	39.2%	34.8%	52.7%	44.4%	30.0%
物をかくす、汚す	16.7%	17.9%	15.4%	9.8%	18.6%	16.2%	16.7%	7.5%
仲間はずれにする	27.7%	25.6%	23.2%	13.7%	29.6%	26.5%	27.7%	10.0%
無視する	11.4%	16.5%	14.2%	5.9%	12.5%	17.9%	11.2%	0.0%
殴る、ける	24.6%	17.9%	13.4%	19.6%	26.0%	17.0%	16.0%	17.5%
お金や物をとる	4.3%	3.3%	6.8%	0.0%	5.2%	4.2%	7.7%	2.5%
笑われることを無理にさせる	8.0%	5.4%	10.3%	9.8%	8.8%	5.6%	9.2%	5.0%
用事を言いつける	5.8%	4.6%	7.7%	9.8%	6.3%	5.4%	6.7%	5.0%
ネット掲示板に書き込む	0.4%	2.3%	9.6%	3.9%	0.4%	2.4%	8.5%	0.0%
その他	10.2%	10.8%	12.3%	23.5%	11.3%	11.1%	9.0%	15.0%

(5)いじめを受けた人は、だれかに相談しましたか。(いじめが今も続いている人)

状況	校種	平成23年度		平成22年度		平成21年度	
		児童生徒数	割合	児童生徒数	割合	児童生徒数	割合
相談した	小学校	10,046	68.0%	9,411	71.0%	9,643	72.1%
	中学校	1,779	67.6%	1,640	66.0%	1,815	64.8%
	高等学校	96	54.9%	306	52.0%	369	55.8%
	特別支援	19	37.3%	22	55.0%	27	64.3%
	合計	11,940		11,379		11,854	
相談していない	小学校	4,732	32.0%	3,849	29.0%	3,736	27.9%
	中学校	853	32.4%	845	34.0%	988	35.2%
	高等学校	79	45.1%	282	48.0%	292	44.2%
	特別支援	25	54.3%	18	45.0%	15	35.7%
	合計	5,689		4,994		5,031	

※高等学校・特別支援についてはH23年度から、回答対象者を「いじめが今も続いている人」と変更した。

主な調査結果【小中学校のみの調査結果】

(1)いじめを受けた人は、だれに相談しましたか。(複数回答:平成23年度小学3年生以上)(割合%)

	平成23年度		
	小学校	中学校	合計
担任の先生	51.6%	60.5%	53.7%
養護の先生	3.2%	10.3%	4.9%
校長先生・教頭先生	1.6%	1.2%	1.5%
それ以外の先生	2.6%	10.3%	4.4%
スクールカウンセラー・相談員	1.7%	8.4%	3.3%
友だち・先輩	30.8%	43.6%	33.8%
家族	63.3%	55.3%	61.4%
近所の人	1.2%	0.9%	1.1%
その他	1.8%	2.1%	1.9%

(2)相談しない理由は何ですか。(複数回答:平成23年度は、小学3年生以上が回答)(割合%)

	平成23年度		
	小学校	中学校	合計
先生に相談するとよけいにひどくなる	34.3%	29.3%	33.1%
先生に相談してもわかってもらえない	19.4%	25.2%	20.7%
自分の弱いところを見せたくない	17.5%	20.9%	18.3%
親が悲しむ	15.7%	19.2%	16.5%
自分の力で解決することができる(た)から	32.4%	32.6%	32.5%
その他	12.3%	20.2%	14.1%

(3)いじめを見たり聞いたりしたことがありますか。

状況	校種	平成23年度	
		児童生徒数	割合
はい	小学校	13,222	13.3%
	中学校	5,019	9.8%
	合計	18,241	12.1%
いいえ	小学校	86,258	86.7%
	中学校	45,981	90.2%
	合計	132,239	87.9%

(4)いじめを見たとき、どうしましたか。(複数回答)

(割合%)

	平成23年度			平成22年度			平成21年度		
	小学校	中学校	合計	小学校	中学校	合計	小学校	中学校	合計
注意してやめさせた	40.0%	18.4%	34.1%	43.2%	19.1%	36.0%	44.6%	17.7%	35.4%
黙ってみていた	27.7%	39.7%	31.0%	23.6%	40.6%	28.7%	22.5%	43.6%	29.7%
その場を通り過ぎた	11.7%	21.0%	14.2%	13.5%	23.9%	16.6%	13.5%	26.7%	18.0%
先生に相談した	23.2%	10.4%	19.6%	21.4%	9.4%	17.9%	21.8%	8.9%	17.4%
友だちや先輩に相談した	19.0%	20.0%	19.3%	16.9%	21.9%	18.4%	17.8%	21.9%	19.2%
自分の親に話した	21.5%	20.6%	21.2%	20.0%	19.9%	20.0%	19.9%	18.8%	19.5%
いじめられている人の親に話した	3.8%	1.5%	3.2%	3.7%	1.0%	2.9%	3.8%	1.0%	2.9%
近所の人に話した	1.7%	0.6%	1.4%	2.4%	1.8%	2.2%	2.4%	1.6%	2.1%
いじめられている人の話を聞いた	28.8%	25.5%	27.9%	30.5%	24.2%	28.7%	30.3%	23.3%	28.0%

(5)あなたは、自由に使える携帯電話やパソコン(インターネットへの接続ができるもの)を持っていますか。(割合%)

	平成23年度			平成22年度		
	小学校	中学校	小中合計	小学校	中学校	小中合計
ア 携帯電話とパソコンの両方持っている	7.9%	22.4%	12.8%	7.4%	20.7%	11.8%
イ 携帯電話だけ持っている	11.2%	11.6%	11.3%	8.9%	11.6%	9.8%
ウ パソコンだけ持っている	21.1%	42.4%	28.3%	22.1%	42.9%	29.1%
エ 両方持っていない	59.8%	23.6%	47.5%	61.7%	24.7%	49.3%
ア+イ (携帯電話を持っている割合)	19.1%	34.0%	24.1%	16.2%	32.4%	21.7%

(6)インターネット上には、学校が作ったものではない学校についてのホームページ(学校非公式サイト)があります。このことについておたずねします。当てはまるものに一つ○を付けてください。(平成23年度は小学校5・6年以上が回答)(割合%)

	平成23年度		
	小学校	中学校	小中合計
ア (学校非公式サイト)書き込みをしたことがある	0.2%	0.6%	0.4%
イ 見たことがある	2.0%	4.3%	3.4%
ウ 学校非公式サイトがあることを聞いたことがある	11.2%	19.4%	16.1%
エ 見たことも聞いたこともない	86.6%	75.8%	80.1%

(7)あなたは、今の学年になって、メールやインターネット上の掲示板などを使っていじめられる「ネット上のいじめ」を受けたことがありますか。(平成23年度は、小学3年生以上が回答)(割合%)

校種		平成23年度		
		あると回答した児童生徒数	割合(%)	実施人数(小3以上)
小学校	男	45	0.1%	34,451
	女	72	0.2%	32,895
	計	117	0.2%	67,346
中学校	男	71	0.3%	26,449
	女	150	0.6%	24,551
	計	221	0.4%	51,000
合計	男	116	0.2%	60,900
	女	222	0.4%	57,446
	計	338	0.3%	118,346

(10)どんないじめを受けましたか。(複数回答)

(割合%)

	平成23年度			平成22年度		
	小学校	中学校	小中合計	小学校	中学校	小中合計
ア インターネット上の掲示板などに悪口などを書かれた	40.2%	54.3%	49.4%	48.3%	67.2%	61.1%
イ 悪口など嫌なことをメールで送信された	53.8%	27.6%	36.7%	41.4%	25.4%	30.6%
ウ インターネット上の掲示板・ブログ等に自分の名前や写真、電話番号などを無断でのせられた	18.8%	15.8%	16.9%	7.8%	15.6%	13.1%
エ 他人から名前をかたられ、信頼をなくすような書き込みをされたりメールを出されたりした	13.7%	13.6%	13.6%	12.9%	16.0%	15.0%
オ その他	12.8%	7.2%	9.2%	10.3%	5.3%	6.9%

(11)「ネット上のいじめ」は今も続いていますか。

	校 種	平成23年度		平成22年度	
		児童生徒数(人)	割合(%)	児童生徒数(人)	割合(%)
続いている	小学校	18	15.4%	21	18.1%
	中学校	18	8.1%	24	9.8%
	合 計	36	10.7%	45	12.5%
続いていない	小学校	99	84.6%	95	81.9%
	中学校	203	91.9%	220	90.2%
	合 計	302	89.3%	315	87.5%